

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援・放課後等デイサービス らいく			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 17日		～	2025年 3月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16人	(回答者数)	13人
○従業者評価実施期間	2025年 2月 17日		～	2025年 3月 20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9人	(回答者数)	9人
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 28日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	週に一度SST（ソーシャルスキルトレーニング）の時間を設け、ロールプレイやゲーム活動を通じて、楽しみながら社会的スキルを習得できる機会を提供している。	・子どもたちの興味関心を引き出すために、図や写真など視覚的教材を多用し、主体的な参加を促している。 ・集中力の持続に配慮し、活動時間や内容の調整を柔軟に行っている。	・保護者が子どもたちの取り組みの様子を直接見られる、参観や体験会を企画し家庭との連携強化と支援の一貫性を図る。
2	運動療育に注力し、教育機関で経験する粗大運動（マット運動・跳び箱・鉄棒など）を体系的に毎週のプログラムへ組み込んでいる。	・複数の感覚統合を意識した運動プログラムを設計し、楽しさを感じながら自然と運動に取り組める環境を整えている。 ・苦手な運動は難易度を調整し、小さな成功体験を積み重ねることで自己効力感の向上を図っている。	・一人ひとりの発達段階・特性を的確に把握し、それに応じた個別目標の設定と達成に向けたサポートを強化する。 ・達成できた成果を適切に認め、運動意欲の持続・向上に努める。
3	定期的な外出支援を通じ、社会的スキルや集団での協調性、公共の場でのマナー習得を支援している。	・社会見学形式での外出を実施し、新たな体験や成功体験を通じて自己肯定感を高められるよう多角的な声かけを行っている。 ・外出前には行き先やルールについて事前説明を行い安心して活動に参加できる環境を整えている。	・外出活動後は家庭とも情報共有を行い、家庭内での変化や成長の様子をフィードバックとして取り入れ、次の支援計画へ活かしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・支援者が保育士資格のみの体制で、専門職（PT・ST等）が不在であること。	・求人体制や採用活動が十分に整備されていなかったため。	・今後、専門職との連携体制を強化するため、外部専門職との連携機会の確保や、採用活動の強化に努める。 ・専門職による助言や支援を受けられる仕組み作りも検討する。
2	・保育・支援を行う部屋が一室のみであり、活動が集団中心になりやすい。	・職員の目が届きやすいという利点はあるが、個別対応を行うためのスペースが十分に確保できていない現状がある。	・個別支援・個別療育の質を高めていくために、物理的な環境整備を進めるとともに、プログラムの再構成や運用方法の工夫に取り組む。
3	・放課後児童クラブや児童館など、地域の子どもたちと交流する場が設けられていない。	・これまでは施設内イベントを中心に、保護者を交えた交流機会の提供に注力していたため、地域とのつながりが限定的であった。	・まずは近隣の事業所とつながりをつくり、交流の機会を増やしていく。